



OSAKA
SAKUYAHIME
AWARD

第3回 大阪サクヤヒメ表彰



受賞者一覧



今後のさらなる活躍が期待され、
後進のロールモデル(模範)となる女性リーダーたち

大阪サクヤヒメ大賞



かわむかい えみこ
川向 恵美子氏

● サラヤ株式会社 商品開発本部 バイオケミカル研究所 第二研究開発部
統括部長 兼 メディカル・デバイス・リプロセッシング・グループ グループ長

医療現場で使用される医療機器の洗浄剤・消毒剤の研究開発に携わり、現在はバイオケミカル研究所で衛生と環境の分野を統括しています。また、プライベートでは3人のこどもがいます。

入社当時は研究職でも結婚・出産や配偶者の転勤で退職する女性が多かったのですが、私は働き続けることにあまり抵抗がありませんでした。2000年頃に社長自らが女性活躍推進の取り組みを始め、社内でも産休育休等の制度が整備されたところに第一子の出産が重なったため、研究所で初めて育児休業を取得できました。1カ月間の海外出張等もありますが、夫も、どうすれば私が働き続けられるかという思考をもって対応してくれています。周囲の理解や支援のおかげで働き続けることが出来ていると実感しています。

また、研究所には様々な国籍の研究员がいますが、私がマネージャーになったころ、マネージャー含め全員持ちまわりで掃除をする決まりに対して、ある外国籍の研究员が

「なぜマネージャーに掃除をさせるのか」と指摘されました。それまでは皆平等ということを受け入れていましたが、これを機会に、階層や役職に伴う役割を各々が自覚することが重要だと認識し、マネージャーにしかできない業務に注力するようになりました。これは職場に多様性があったからこそ気付けたことです。

子育て中は会社を休まなくてはならない機会が多くなります。在宅勤務制度があればとても重宝します。一方で現場でしかできない業務もあり、他の人に負担がかかることもあります。周囲が不満を持たないように、組織としての大きな目的を一人ひとりが理解できるように取り組んでいなくてはなりません。

今後も研究開発者として、大阪で生み出された商品やサービスが世界に発信できるよう、商品の開発や技術の開拓をこれからも進めていきます。また、今のこども達が社会に出るころには「女性活躍」という表現がなくなるように活動していきたいと考えています。

大阪サクヤヒメ賞



たかみや のりこ
高宮 紀子氏

● 関西電力株式会社
地域エネルギー本部 地域エネルギー開発グループ 部長

大学で都市工学を専攻し、エネルギーインフラを通じて地域に貢献したいと考えて入社しました。本店の建替えや営業を経て、今は地域のスマートコミュニティの提案や、夢洲・中之島地域の開発に携わっています。

3人のこどもがいます。こどもが小さいころはタイムマネジメントが難しく、仕事との両立に不安を感じていました。当時は営業所の役職を務め、お客様対応等で定時に退社できないこともありました。こどもが職場体験会に参加したときに営業所長の話に感心し、「お母さんあんな風になれるのらがんばってみたら」と言ってくれたことが、今まで働き続ける支えの一つになっています。また、未経験の営業所に役職として配属された経験は、この会社で働き続ける覚悟を決

めるきっかけにもなりました。

就職の際、「生活者に近い女性がこの会社で働けないはずがない!」と思って入社したものの、当時は想像以上に男性社会でロールモデルが少なく、特に出産後は先のキャリアが見えない不安もありました。一方で、地域に貢献したいという大きな目標があったこと、周囲の理解と支援があったため、働き続けてこられました。

女性活躍が浸透してきましたが、今後は、いかに女性が働くことを普通のことにするかが重要です。職場では共働きの男性も増えたので、男女問わずライフイベントの中で業務上配慮すべきことが起きたら、自身から発信しなくてはならないと部下に伝えています。また、マネジメント側が過度に配慮し、パターンリズムに陥らないようにと目を配っています。

大阪サクヤヒメ賞



とりう ゆきえ
鳥生 由起江氏

● 大和ハウス工業株式会社
人事部ダイバーシティ推進室 次長

入社以来23年間商品開発部に在席し、現在は人事部でダイバーシティ推進を担当しています。高1の息子と4度目の単身赴任中の夫がいます。自分のキャリアを大切に、与えられた役割を全うしたい思いに従い、夫の転勤に帯同したいという考えは浮かびませんでした。

8年前、商品開発から人事への異動辞令が出たときは、「何で私が?」と畑違いの職種に困惑しました。1年ほど、それまでの建築物ではなく人の気持ちを相手にする仕事の本質に悩みながら、多くの社員に会い相談を受けるうちに、技術者時代の想像をはるかに超えた現場の実情を知り、視野が広がりました。特に、以前は無理だと思っていた女性の現場監督が社内にいることにとっても衝撃を受けました。異動は、仕事を通じて自分が成長する実感が持てた貴重な経験となりました。

子育てを両立していたころ、上司から「仕事のミス子育てのせいにするな!」と叱られたことがありました。その時は理不尽に感じたものの、後から考えると、自分の能力や工夫が足りなかったことに気づかされました。その経験から、人事に相談に来られる方が抱えている問題を、子育て中だから、とひとくくりせず、解決に向けて一緒に整理し、対応できるようにになりました。

誰もが働きやすくなるために、以下の4つが必要だと考えています。1つ目は今後マジョリティとなる制約社員を含め、誰でも使える柔軟な制度を作り、選択肢を増やすこと。2つ目は全員が定時で帰れる会社を目指すこと。3つ目は自主・自立性を持った人を育成すること。最後に、女性が参加することによって、プロセスやプロダクトにイノベーションが生まれ、それを社会に広めて好循環となる流れを作ること。この4つを企業として実現していくべきだと考えています。

大阪サクヤヒメ賞



いしい まゆみ
石井 眞由美

株式会社大林組
建築事業部プロジェクト設計第二部 副部長

1988年に一般職として入社。1990年に総合職に転換し、大型業務施設・大型商業施設大型スポーツ施設等の改修を担当。現場工事事務所に常駐して設計業務を担当する、女性初の現場設計チーフとして実力を発揮。手掛けた案件が様々な賞を受賞した。育児休業からの復職後も工事事務所に常駐し、短時間勤務でも設計実務が可能な方法を検討し実践。設計部門の業務を効率化する新たな仕組みの導入や、女性が少数派である設計部門の「女性職員意見交換会」を企画・実施するなど、部門横断的な取り組みにも積極的に携わる。

大阪サクヤヒメ賞



かわさき ゆみこ
河崎 由美子

積水ハウス株式会社
総合住宅研究所 住生活研究所 所長

1987年に入社後約10年間、住宅の採光技術や心理・生理の評価研究に携わる。1999年に育児休業から復帰後、商品開発部門にてこどもの安全安心を追求した商品の研究開発に携わり、数多くの「キッズデザイン賞」を受賞。2015年よりライフスタイル研究開発グループリーダーとして、生活者の心に寄り添った暮らしの研究に取り組み、2018年に住宅メーカーでは初となる幸せを研究する住生活研究所を設立、所長に就任。帰国子女としての語学力と経験を活かし、産官学と連携したグローバルな女性研究者の活躍推進にも取り組んでいる。

大阪サクヤヒメ賞



にしな み
仁科 あゆ美

一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団
理事兼本部長

1994年入職後、大阪府立女性総合センター（現・大阪府立男女共同参画・青少年センター/ドーンセンター）を拠点に女性相談の事務局を担当。年間9,000件にのぼる相談を通し、女性の活躍を阻む壁を認識。財団自立化以降は活動エリアを全国に広げ、国内外・産官学民と連携し、女性の貧困削減事業研修、東日本大震災や熊本地震被災地の女性相談事業等の事務局、女性への暴力等の支援対策事業を担当。2018年には女子高校生が自分らしいリーダーシップを学ぶサマースクールを大阪で初めて企画・開催した。

大阪サクヤヒメ賞



のむら しおり
野村 しおり

大阪糖菓株式会社
代表取締役社長

英語塾講師や経理事務、カフェ店長、ミュージアムチーフ等を経て、1940年から続く金平糖メーカーの3代目として2014年に社長就任。経営の合理化や新規事業開拓を進め、売上3億と黒字化という当初目標を3年で達成した。大阪日本ポルトガル協会の理事を務め、金平糖とポルトガルワインとのコラボ商品を開発。日本の四季を感じられる説明とともにデンマーク、ベトナムに金平糖を無償提供し、日本文化のPRに貢献。Facebookでは南蛮人に扮する「フロイスしおり」として国内外4,400人の友達をもつ。

大阪サクヤヒメ賞



はるの けいこ
春野 恵子

公益社団法人浪曲親友協会
理事

東京大学卒業後「進め!電波少年」の企画において家庭教師・ケイコ先生としてデビュー。タレント、俳優として活動した後、2003年に浪曲に出会い入門。2006年に初舞台を踏み、現在年間200回程度の公演を実施。ジャンルを超えた連携にも積極的で、ロック浪曲という新しいジャンルの浪曲を生み出し、バンドの演奏とともに浪曲の物語を歌い語る活動も行う。世界に浪曲を発信するため、演芸では初の試みとして、クラウドファンディングで資金を集めることに成功。延べ8か国で20回、全編英語浪曲などを上演。

大阪サクヤヒメ賞



みずしま ちえ
水島 千瑛

株式会社竹延 リニューアル技術・
技能支援アドバイス部門 マネージャー

2011年に電気設備会社に入社後、結婚・出産を機に自分のやりたい現場に立てないと退職。2015年に現会社に技術職として入社。1歳児の子育てをしながら時短勤務で施工管理業務を行う。2016年に現場に出る女性施行管理者・女性職人のために社内に託児所をつくるよう提案し、仲間とともに実現。2人目の育児休業中に同社のIT事業の核を考案して事業化。息子と新聞広告に出るなどPR活動や女性技術者の意識改革に積極的に取り組んだ結果、入社希望者が4割増加し、女性雇用率が5倍に拡大した。



いしづか ちえこ
石塚 智栄子

明治安田生命保険相互会社 大阪本部
大阪事業法人開発営業部 法人開発営業部長

1989年に入社後、一貫して大阪で営業活動に従事。自ら希望した法人営業では15年間で100社以上を担当し、団体保険の新設、企業年金の運用受託などの成果を上げる。大阪の新卒営業専門職の中で、結婚・出産後にはじめて復職。定時勤務をしながら、育児と両立。2016年からの新規法人開拓業務では、新規の取引先から大口契約を受託するなど成果を挙げ個人表彰受賞。2018年から女性初の事業法人開発営業部長。



いわみ かなこ
岩見 佳奈子

株式会社近畿大阪銀行
羽曳が丘支店 支店長

1993年入社。2014年に支店長に就任し、現在の羽曳が丘支店で2店舗目の支店長を務める。顧客拡大のため新たに勉強会を開催し、営業経験の浅い職員でも顧客ニーズをつかむことができるようにし、自身も一緒に顧客の課題解決を提案したことで、2016年度にエリア3位となり優秀店舗として社内表彰を受賞した。また、お客さまから良く見える店頭ディスプレイに着目し、工夫を行った結果、店頭ディスプレイ表彰に3期連続で表彰された。



うおもり きよえ
魚森 清恵

UOMORI 企画
代表

調味料・食品添加物企業での開発職を経て、味付けに特化した食品開発のコンサルタントとして2012年に起業。調味料、宅配惣菜、缶詰め等を提案商品化し、顧客企業の売り上げに貢献する。味付けを通じて日本の素晴らしい食文化を広く国内外に発信することをめざし、2016年に「味付けアドバイザー協会」を設立。自家製調味料で家庭料理を簡単につくることができる料理教室の開催や人材育成を行っている。



うじ ようこ
宇治 洋子

日本郵便株式会社
住吉郵便局 局長

入社後幅広い業務を担当し、2011年に近畿支社内で初の女性支店長になる。2015年に近畿支社女性活躍室長となり、女性社員セミナーや管理者研修を自ら講師として実施。女性活躍推進法に基づく数値目標である女性管理者割合10%を近畿支社において達成し、全国を牽引した。2018年からは局長としてきめ細かな指導を行い、社員間の情報共有や郵便局ファンを増やす取り組みを積極的に行っている。



おおつき さくらこ
大槻 櫻子

有限責任あずさ監査法人
第3事業部 パートナー

女性割合が少ない監査法人で極めて珍しい女性パートナーの草分け的存在であり、4人の子育てと仕事を両立。2009年、新規サービスであるIFRS（国際会計基準）導入支援業務の立ち上げに貢献。社内では80名超が所属するグループのライン人事責任者を担当する一方、社外では2015年から関西企業における女性経理人財を育成するための講座を企画し、講師として登壇。累計20回で延べ405名が受講するなど成果を挙げている。



おきたに さちこ
沖谷 幸子

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社
難波支店営業第一部 部長

1991年神戸支店に一般職として入社。1995年に総合職に転換。育児休業を経て2003年にエリア総合職に転換。時短勤務のなか効率営業を徹底し、2013年にエリア総合職全国初の課長として資産運用課長になる。2015年に梅田支店に異動。新たに構築したビジネスモデルをもとに、チーム全体で目標を達成。社長表彰を受賞すると同時に、部下も個人表彰に導く。2017年よりエリア総合職として関西初の女性営業部長を務める。



このの ちよ
河野 千代

公益社団法人日本技術士会
理事・近畿本部副本部長

製袋会社に勤務した後、結婚退職・出産を経て建設会社に入社。独学と実践で2013年に技術士を取得。2014年に日本技術士会近畿本部の建設部会幹事就任後、現役若手世代向けの企画で会務活性化に貢献する。チャレンジを続けた経験と実績が評価され、女性が全体の約2%でありながら、2017年理事に3位当選。技術士活躍の場拡大に向けた産官学連携強化活動を自ら企画するなど精力的に活動している。



こざわ ともこ
小沢 智子

三機工業株式会社関西支社
管理部長

一般職として17年間総務・人事関連補助業務を担当し、2008年総合職に転換。2012年人事システムの構築に専任し、その貢献により本部長表彰を受ける。その後、人事業務に従事し、2015年人事課長として、社長をリーダーとする働き方改革プロジェクトの立ち上げメンバーに女性として唯一参画。女性工事現場担当者との面談等に基づき、休暇制度の充実等環境整備を行い、育児休業復職率100%を実現した。2017年人事部担当部長。2018年より現職。



さとう せいこ
佐藤 聖子

レンゴー株式会社 パッケージング部門開発本部
デザイン・マーケティングセンター部長

1990年入社。1999年より、デザインとマーケティングを駆使したパッケージの開発、提案に携わる。2007年に管理職就任。新たに全国6拠点を開設し、東京・大阪と同レベルのきめ細やかな対応が可能な体制、仕組みを構築した結果、提案依頼案件が倍増し、受注拡大に大きく貢献した。2017年4月より部下60名以上、かつ女性が90%以上を占める同部の部門長に就任。業務の効率化と働き方改革に取り組んでいる。



しばはし しずか
柴橋 静華

株式会社ワークアカデミー
スクール事業部 統括マネージャー

教材出版電話営業で実績を上げた後、大学生・社会人向けビジネススクールの拠点長として目標の160%を達成し2008年に新人賞を受賞。育児休業を経て、時短勤務をしながらスクール部門統括マネージャーを務める。キャリアアドバイザーとして2,000人以上のカウンセリング経験、人事経験、キャリア研修講師等の実績を活かし、2016年から未来教育推進機構の女性活躍推進プロジェクト（UMECO）リーダーを務めている。



すぎもと ようこ
杉本 容子

株式会社ワイキューブ・ラボ
代表取締役

博士論文執筆中に大阪大学に教務補佐員として勤務後、都市計画・まちづくりのコンサルティング会社でスキルを磨きながら大阪都心部でNPO活動を展開。2009年から3年間、民間特別任用で大阪府に勤務し、大阪市立大学の研究補佐も兼任しつつ、都市魅力プランナーとして水都大阪関連施策の成功に寄与する。女性ならではの視点でハードとソフトをつなぐまちの魅力づくりを実践するため2011年に起業し、代表取締役に就任。



たかみつ ともこ
高光 朋子

海商株式会社
取締役 最高管理責任者

入社後3年間、商品出荷・受発注業務を担当。2015年から新しい介護食の開発に携わり、2016年に新規事業部（旧ライフケア事業部）を立ち上げ、事業部長として商品開発・営業を行う。2017年から管理部門の責任者となり、管理部と人事部を統括しつつ、ビジネスコンテストへの応募に力をいれた結果、「ニュービジネスアワード」「大阪健康産業有望プラン発掘コンテスト」等で入賞し、新規取引先を拡大した。



たけだ
武田 かおり

社会保険労務士法人NSR テレワークスタイル推進室
チーフ・テレワークスタイル・オフィサー

企業にて一般職、派遣社員として勤務後、結婚退職。専業主婦を経て、第二子出産直後に社労士資格勉強を始め、2004年に合格。大阪労働局非常勤勤務を経て、2005年開業登録。2008年テレワーク専門相談員就任時より、一貫してテレワークの周知啓発と導入支援に取り組む。政府のテレワーク推進事業をはじめ、100回を超える講演、500件を超えるテレワーク導入相談に対応。2016年社会保険労務士法人NSRの役員に就任。



たにむら きよみ
谷村 清美

大同生命保険株式会社
人材力向上推進室 室長

一般職として入社後、営業統括部門、人事部門、内部管理部門等で多様な経験を積み、2013年に全国異動のある総合職へコース変更。2014年より、大阪の人事部門・広報部門の管理職として、「同社創業者の一人である広岡浅子および同社前身の大阪の豪商加島屋の広報」「新しい働き方に合わせた大阪本社ビルのリニューアル」「次代を担う新入職員の採用」を担当。2017年より現職に就き、全社の人材育成に取り組む。



なかごし ちかこ
中越 味子

アビリート株式会社
代表取締役

証券会社・航空会社に勤務後、結婚・2児出産と6年間の家庭生活を経て、2007年アビリート株式会社設立。業務経歴を基に企業研修を主としたビジネス支援事業と、子どもに関わる教育支援事業を開始。また祖母の介護と仕事の両立の経験から、地域の潜在労働力を活用した地域相互扶助支援にも取り組む。年度毎に研修受注数を増加させ、2017年度は年間180件を受注。受講者満足度は常に98%以上を達成している。



大阪サカヤヒメ大賞受賞者への表彰盾授与



なかつか みゆき
中塚 美由紀

日本たばこ産業株式会社 北関西支社
社会環境推進担当部長

1991年に実業団スポーツである女子バレーボール部社員として入社。選手として多くの功績を残し、引退後は社業に専念する。結婚・出産後も喫煙環境整備やCSRの分野において活躍。2016年自身初の営業現場でチームビルディングに貢献し、女子バレーボール部出身社員として初の管理職となる。現在、女子バレーボール部社員のスポーツ、社業双方でのロールモデルとして、現役選手への研修講師も務める。2017年現職就任。



なかむら まりこ
中村 麻里子

大阪シティ信用金庫
広報部長

1983年入庫以来、営業店5カ店、本部5部署を経験後、2008年に管理職に昇格。2015年に出張所長に昇進。2016年に女性初の部長として、現職に就任。金庫創立90周年事業の広報に携わり、女性ならではの柔軟な発想力を発揮し、企業イメージアップに貢献した。シングルマザーとして2人の育児をしながら、仕事と家庭の両立を実践。多くの女性職員にとって、自身が将来目指す姿を投影する存在となっている。



にお かずよ
仁尾 和世

株式会社電通関西支社 ソリューション・デザイン局
ビジネス開発グループ プロジェクト開発部長

入社後、3年間の営業総務を経て、マーケティング局で生活者インサイト・業界分析・プランナーに従事。大阪市内で150名超の女性ネットワークを構築し、リアルな生活者の声の収集・分析に努め、課題や悩みの解決策を顧客に提案。その後、プロモーション、戦略PR・企業広報などを担当。2014年に管理職登用。現在は企業リスクコンサルティングや、SDGs、関西プロジェクト開発、健康・ヘルスケア領域で活躍している。



ひろせ のぶこ
廣瀬 伸子

株式会社池田泉州銀行
梅田支店・支店長

1998年投資信託窓口販売解禁に伴い、立ち上げ当初から販売体制の構築に携わる。預かり資産店頭販売を担う女性販売員であるマネー・コンサルタントと呼ばれる職務を導入し、それまで内部事務が中心であった女性行員に新たな道筋を切り開いた。2012～2013年、同行の女性活躍支援策の検討会「女性と組織の活性化ワーキンググループ」に参加。課題や改善に向けた意見を提示し、人材育成施策の展開に大きな影響を与えた。



ふじわら れいこ
藤原 玲子

株式会社ダスキン
ダスキンお掃除教育研究所 室長

同社の社会貢献活動の一環である「学校教育支援活動」として、教員向けセミナーや児童向け出前授業「キレイのタネまき教室」を担当。教員セミナーは年間約20教育委員会で実施。出前授業は累計1,988校で実施し、176,624名の児童が受講。2011年にフランチャイズ加盟店と協力して活動を全国に展開するため、認定資格「学校掃除サポーター制度」を立ち上げた。2014年より推進組織の責任者として現職に就任。



ほそかわ ゆみこ
細川 弓子

株式会社マダム
第一マーケティング部 部長

1988年に入社以来、多岐にわたるマーケティング分野を担当。非主力であった女性化粧品の担当を歴任し、少ない人・予算・情報を活用したマーケティングで、社内の女性化粧品の地位向上に貢献。2010年より両親の介護を開始し、支援策の提言により同社の介護制度整備のきっかけをつくった。2016年よりミドル男性向けブランドの部門長として業績を伸ばし続けるほか、自社、他社問わず組織の垣根を越えたマーケティング後進育成に注力。



やすはら きょうこ
安原 京子

株式会社ジャパンEAPシステムズ
事業推進本部 副本部長

企業のメンタルヘルス対策等を請け負う専門職集団である同社に、2003年唯一の事務社員として入社し、人事・総務・経理の全てを担う。「就業規則」改定をはじめ社内規則を整備。2009年総務チームの管理職に就任後、「短時間正社員制度」「有給休暇の時間単位取得制度」を導入。現在、事業推進本部副本部長としてシステム及びセキュリティ責任者も担う。社員の健康推進策を主導し、同社の「健康経営優良法人2018」認定に貢献した。



やまさ あつこ
山佐 亜津子

学校法人大阪YMCA
統括本部 部長

入職以来30年間、総合職として学校運営全般を担当。英会話スクールスタッフ、日本語学校主任・副校長を経て、2010年台北に大阪YMCA教育交流センターを立ち上げ、センター長として2年間単身駐在。台湾を拠点にアジア諸国の学校等で、大阪の魅力や日本留学のメリットを伝え、来阪数の増加に貢献した。帰国後は留学生事業部責任者、語学国際事業部責任者を歴任。2018年統括本部にて女性初の部長に就任。



ゆかわ きみこ
湯川 公美子

大阪信用金庫
支店長代理

1994年泉陽信用金庫入庫。2004年大阪信用金庫と合併後、3店舗の大型店で事務職経験を積む。この間、様々な金融試験に合格。2012年忠岡支店支店長代理就任。2015年南エリアの母店である宿院支店（預金量700億円、来店客数1日400人）の支店長代理に就任。長年の経験を活かした部下指導により、2016年・2017年窓口対応コンクール優勝者を自店から輩出、2017年度下期事務検査部門で73店舗中9位を記録した。



よねかわ みか
米川 美香

株式会社ライフコーポレーション
惣菜部惣菜課 チーフバイヤー

2007年入社後、店舗惣菜担当・チーフを経験。入社6日目よりバイヤーとして本社勤務。男性社会の風土の中で、業務の効率化を提言し、女性もバイヤーとして働ける環境づくりに貢献した。2012年「女性活躍推進プロジェクト」初期メンバーに選抜され、女性のライフイベントに関するガイドラインを作成。ロールモデルとして、社内の風土・意識改革を行い女性活躍推進に努めた。現在、次世代バイヤー候補の育成にも注力する。



大阪サクヤヒメ大賞受賞者



大阪サクヤヒメ賞受賞者



活躍賞受賞者

表彰概要

大阪サクヤヒメ表彰について

企業活動や文化的活動で活躍する女性リーダーを表彰する制度で、佐藤茂雄前会頭の顕彰事業として2016年度に創設。

本事業は、政府が推進する政策目標「2020年に指導的地位に占める女性の割合を30%にする（通称：202030）」の実現の一助とするため、2020年度まで実施いたします。

表彰の種類

大阪サクヤヒメ大賞・大阪サクヤヒメ賞・活躍賞

表彰対象

下記のいずれかに該当する方。

- 本会議所法人・団体会員に属する女性役員または女性管理職・管理職に相当する高度な専門職
- 本会議所個人会員である女性個人事業者
- 大阪に活動拠点をもち文化的活動に携わる女性で本会議所会員の推薦を受けた方

選定方法

「大阪サクヤヒメ表彰選定委員会」にて、活動項目に基づき審査（1次審査：書類選考、2次審査：書類・インタビュー動画選考）を行う。

活動項目：業績（必須）および、A・Bいずれかを選択。

A：人材育成・ワークライフバランス

B：社会貢献・都市魅力向上

第3回大阪サクヤヒメ表彰 表彰式・祝賀パーティ

2018年12月6日（木）リーガロイヤルホテル（大阪）

第3回大阪サクヤヒメ表彰 記念フォーラム

2019年2月6日（水）商工信金ホール

ロゴマークコンセプト

大阪を動かす原動力が集約し、未来を花咲かせる大阪商工会議所。そこで活躍する女性を表現するために、「OSAKA」の「O（正円）」が集まって形づくられる花のモチーフをデザイン。

日本の伝統色である淡い桜色と濃いピンクで、しなやかさと力強さが調和している様を表現しています。



（本冊子に記載の情報は2019年2月22日現在のものです。）

大阪商工会議所 人材開発部研修担当
「大阪サクヤヒメ表彰」係

〒540-0029 大阪市中央区本町橋2-8
TEL 06-6944-6421

[HP] <http://www.osaka.cci.or.jp/osakasakuyahime/>

[Facebook] <https://www.facebook.com/osakasakuyahime/>